ヨルグ・シュピッツ先生来日記念プレ/ポストイベント
PRESENTATION AND DISCUSSION

ヨルグ・シュピッツ先生の来日を記念して、当カンファレンスの他、日本国内の研究機関や研究者、大学と連携したプレ・ポストイベントを企画しています。ぜひご出席ください。

参加無料、要予約　お申し込み先：www.sun-and-health.jp

セミナーA
10月2日（水）13:00-15:00

主催：東京慈恵会医科大学
浦島充佳

場所：東京慈恵会医科大学
大学2号館14階1403会議室

テーマ：ビタミンDと癌

セミナーB
10月3日（木）13：00-15:00

主催：慶應義塾大学ＳＦＣ研究所
健康情報コンソーシアム

場所：慶應義塾大学三田キャンパス

テーマ（予定）：スマートシティのための最適な健康情報

セミナーC
10月8日（火）14:00-16:00

主催：国立環境研究所地球環境研究センター　中島英彰

場所：国立環境研究所・地球温暖化研究棟・交流会議室

テーマ：太陽紫外線によるビタミンD生成のメリットと人体への悪影響

※上記セミナーの詳細情報は上記WEBサイトでご確認ください　【敬称略】

主催

HÄFELE

協賛

HelioVital®
Sun Filter Technologies

後援

順天堂大学医学部附属練馬病院

公益社団法人日本ビタミン学会

AHK German Chamber of Commerce and Industry in Japan 在日ドイツ商工会議所

health information

DJW 日独産業協会 Deutsch-Japanischer Wirtschaftskreis

1.German/Japanese

Conference on Sunlight and Health

日光の健康への影響 ー乳幼児から老年までー

近代的な生活習慣と都市生活の中で十分に日光浴をしなくなったことが原因で起こる健康上の問題は数えきれません。UV A / Bカット（紫外線カット）は大切ですが、その一方でUVA / B（紫外線）は私たちの健康を維持するために食事療法や運動と同じくらい重要なファクターです。医療の専門家はこの問題を理解していますが、一般の人々は知らない状態です。

本カンファレンスは、医療や環境、建築や産業などの専門家に健康と日光に関する最新の学際的知識を広く共有していただきます。ヘルスケアシステムにおける病気による医療費の増加に焦点を当て、問題を解決するために、日光と健康の関係を理解したインフルエンサーやオピニオンリーダーを育てるための試みです。

日時

2019年10月4日（金） 受付10：30～

カンファレンス 11：00～18：00

懇親会 19：00～20：30

会場

新宿パークタワー 3F パークタワーホール
（東京都新宿区西新宿3-7-1）

会費

カンファレンス 一般 6,000円
学生 3,000円

懇親会 5,000円

本カンファレンスにご参加いただいた皆様と、ご登壇者様との交流の場として、懇親会を開催いたします。
多くの皆様のご参加をお待ちしております。

お申込みは公式サイトより
www.sun-and-health.jp

お問い合わせ先：「Sunlight and Health」カンファレンス実行委員会　sun-and-health@hafele.co.jp

Programme

環境分野における最新情報

11:00 開会の辞
株式会社 ハーフェレ ジャパン　代表取締役社長
カール・ハーネ

11:10 紫外線によるビタミンD生成のメリットと人体への悪影響
国立環境研究所地球環境研究センター主席研究員
中島英彰

医療/ヘルスケア分野ヘルスケア分野における最新情報

11:45 日本人のビタミンD栄養とライフスタイルとの関係
大阪樟蔭女子大学教授 、健康栄養学部 健康栄養学科　公衆衛生学研究室
津川尚子

12:00 こどもの骨のかたちとビタミンD
順天堂大学医学部附属　練馬病院、整形外科スポーツ診療科　准教授
坂本優子

12:15 TeamBONE！ビタミンD欠乏ゼロへの挑戦
～世界の親子に届けよう！チーム・ボーン・ソング～
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科　特任講師
慶應義塾大学SFC研究所上席所員（健康情報コンソーシアムメンバー）
本田由佳

12:35 グループディスカッション
日本人のビタミンD栄養低下の原因とその改善：
ライフステージに応じた問題点
津川尚子、坂本優子、本田由佳

13:00 休　憩

13:50 ビタミンD：癌患者さんに対する治療薬としての可能性
東京慈恵会医科大学教授、分子疫学研究部 部長、小児科専門医
浦島充佳

14:20 認知症：薬物治療から、日光とビタミンDを用いた
徹底的予防へのパラダイムシフト
元衆議院議員、新井病院 脳神経外科医師
宮沢隆仁

ドイツのヘルスケア最新情報、コストの問題と経済的効果に関して（同時通訳あり）

14:55 日光とビタミンD - 現代文明によって失われた
多くの天然資源、その氷山の一端
人間医学アカデミー（AMM）、健康情報と予防のためのドイツ財団代表責任者
ヨルグ・シュピッツ

15:25 ビタミンDのベネフィット―日本の労働者のために―
ウィズダムツリー・ジャパンの最高経営責任者(CEO)
イェスパー・コール

15:55 休　憩

建築/産業分野における最新情報

16:20 太陽紫外線の諸特性と1990年代以降の太陽UV-Bの増加トレンド
東海大学名誉教授、日本化学会フェロー、日本皮膚科学会倫理委員会委員
佐々木政子

16:50 光の非視覚的影響と健康
九州大学名誉教授（一部ラフォーレエンジニアリング株式会社共同研究）
安河内朗

17:20 照明デザインと健康※
ALD JAPAN（一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会)理事、一般社団法人 照明学会 学会誌編集委員会委員
ALG（建築照明計画株式会社）ディレクター、照明デザイナー
小西美穂

18:00 閉会の辞
株式会社 ハーフェレ ジャパン　代表取締役社長
カール・ハーネ

懇親会（立食、飲み物と軽食をご用意しています）

19:00～20：30

【敬称略】

※本セミナーは、下記CPD制度の共通認定プログラムです。
建築CPD情報提供制度、JIACPD制度、建築士会CPD制度、建築設備士関係団体CPD制度、建築・設備施工管理CPD、APECアーキテクト、APECエンジニア

中島英彰

日本各地10か所で紫外線強度を観測している「有害紫外線モニタリングネットワーク」のデータから、ビタミンD生成紫外線量や紅斑紫外線量を計算し、準リアルタイムでホームページから提供するシステムを構築した。本講演では、現在国立環境研究所HPから「ビタミンD生成・紅斑紫外線量情報」として公開しているデータを元に人体への影響に関し発表する。

津川尚子

成長期から高齢者までの日本人のビタミンD栄養の現状ならびに骨密度・骨折との関係について紹介するとともに、生活スタイル（日焼け止め使用頻度や戸外活動パターン、食事の影響）との関係について発表する。

本田由佳

骨折・不妊予防、医療費削減の目的から、生涯を通じて、毎日の食事と適切な日光浴で、血中のビタミンD濃度を高めておくこと大切だと考えられる。複数大学を拠点に発足した「大学発！骨と情報の専門家集団TeamBONE」は、「Society 5.0（ソサエティ 5.0）」の社会を前提に、骨折予防＆ビタミンD欠乏ゼロをゴールとした啓発ソング「チームボーン・ソング」を制作した。ビタミンD欠乏という我が国の健康課題に対して、「誰一人取り残さない」ビタミンD欠乏ゼロの社会実現のために、啓発ソングを通じて挑戦する取組の概要を紹介する。

坂本優子

ビタミンDは欠乏しても、病気としての症状は現れにくいと言われている。しかし、健康な骨の維持に必須なビタミンDが欠乏すると、こどもの骨には目に見える悪影響が出現する。当院における臨床研究の結果から見えてきた、骨の形とビタミンDの関係を発表する。

浦島充佳

ビタミンDは癌患者全員に有効というわけではないが、一部の患者には有効である可能性を示唆しており、更に研究を進める価値がある。「ビタミンDの血清濃度が高い人では低い人に比べて、癌の発症率が低い、あるいは癌の再発・死亡が減少する」というメタ解析結果が報告されてきたが、本講演では我々の行った研究を中心に、最新の研究結果を紹介する。

宮沢隆仁

アルツハイマー型認知症（以下AD）は「人類の未来を脅かす人生病」と捉えられ、AD発症を抑制する「予防」が医学的にも医療経済的にも重要である。日光がうつ病発症、多発性硬化症、認知機能低下等を抑制するという報告があり、そのメカニズムも徐々に明らかにされつつある。本講演では、日光とビタミンDの役割に焦点を当て、AD予防のための「人間の新しい生き方」を模索する。

ヨルグ・シュピッツ

我々が失ってきた様々な天然資源は、重力や太陽放射などの物理的要因から始まり、さまざまな栄養的要因に続き、社会的側面へ至る。本講演では、最もバランスのとれた心身の健康のため、天然資源を活用する大切さと日光とビタミンDの重要な役割を説明する。

イェスパー・コール

一般的に労働者は家族を持ち、家族の健康は労働者の生産性にも大きく影響する。本講演ではビタミンDレベルを適切に維持する利点に着目し、労働者本人の生産性への直接的な影響、家族の健康管理とその大きな意味、加齢に伴う病気への予防の必要性を論じる。

佐々木政子

可視光線の紫より短波長側にある眼には見えない400～100nmの電磁波が紫外線と呼ばれる。専門用語は紫外放射(ultraviolet radiation：UV)であり、略語UVが常用される。本講演では、１．太陽紫外線とは　２．太陽紫外線の人体作用　３．太陽紫外線の防御法　４．１９９０年代以降の太陽UV-B紫外線の増加傾向について述べる。

小西美穂

光と健康について、様々な角度から私達人間と光の関係についてみることによって、光との上手な付き合い方を照明デザインの観点で探っていきたい。

安河内朗

人工照明は一定の光の強さと分光分布を維持し、これは自然光とは大きく異なる物理特性である。そのために適応性という点でさまざまな問題が生じる可能性がある。近年、多くの生理機能が無自覚にうちに光に影響をうけていることがわかってきた。これは非視覚的影響といわれ、眼で見て感じる心理的影響とは独立している。
ここでは、日常の人工照明による非視覚的影響がどのように健康と関わるかについて概説するとともに自然光の重要性を再認識する。